

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

★最初のISS構成要素打上げから2244日経過しました。

★第10次長期滞在クルーのISS滞在は88日経過しました。

★ISS動向

第10次長期滞在クルーのリロイ・チャオとサリザン・シャリポフ両宇宙飛行士は、週明けから幅広い活動を行いました。

まずは、ISS内の各所で定期的な騒音測定を行いました。そして、米国時間1月26日に予定されている船外活動で船外に設置する実験装置のために必要なソフトウェアをインストールしました。Rokvissと呼ばれるこの実験は、将来のISSの組み立てを支援するロボットアームのプロトタイプの試験を行うものです。

なお、元日に停止したエレクトロン(酸素発生装置)は、部品交換などの復旧処置を行い8日以降は正常に動作しています。



ニュースメディアからインタビューを受けるシャリポフ(左)とチャオ(右)両宇宙飛行士

“スペースシャトル飛行再開に向けて”

★外部燃料タンク(ET)、ケネディ宇宙センター(KSC)に到着

スペースシャトル飛行再開第1号となるディスカバリー号用の外部燃料タンク(ET)が米国時間2005年1月6日にNASAケネディ宇宙センター(KSC)に到着しました。これにより、スペースシャトルの全ての構成要素がKSCに集まりました。

ETは、NASAとロッキード・マーチン社によって断熱材の落下防止処置やタンク分離カメラの取り付けなどおよそ2年かけて改良されてきました。

同2004年12月31日にETは、ペガサスと呼ばれる専用のはしけに乗せられNASAの2隻の補助ロケットブースタ(SRB)回収船リバティスターとフリーダムスターに曳航されてニューオーリンズのミシュー組立工場からフロリダのケネディ宇宙センターに向けておよそ1448kmの船旅に出発しました。

KSCに近づくとのはしけの曳航はタグボートに切り替えられ射点近くに接岸しました。その後、ETはおよそ30分かけてはしけからスペースシャトル組立棟(VAB)に運び込まれました。ここでETは最終点検を受けます。



改良されたETを確認するSTS-114クルー(ミシュー組立工場)



KSCの射点近くに接岸するET



はしけから降ろされるET



VABに運び込まれ、吊り上げられた状態

“トピック”

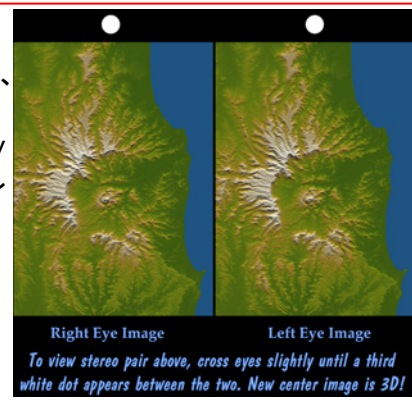
★地球全体の地形図完成

NASAと国家地球空間情報局(National Geospatial-Intelligence Agency: NGA、(旧NIMA、国家画像地理局))は、2000年2月に毛利宇宙飛行士が搭乗したスペースシャトルミッション(STS-99)で取得したSRTM(Shuttle Radar Topography Mission)データを4年の歳月をかけて解析し、地球全体の地形図を完成させました。SRTMとは、ふたつのレーダにより地表の立体データを取得するものです。

NASAは地域毎にSRTMデータを公開してきましたが、今回のオーストラリアとニュージーランドおよび多くの島々の公開により、全ての公開が終了しました。これにより、地球の陸域の80%のデジタル標高地図が完成しました。

地表の画像は以下のページで紹介されています。

<http://photojournal.jpl.nasa.gov/targetFamily/Earth>



問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメールリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。